

耳鼻咽喉・頭頸部外科

■ スタッフ

科長	竹内万彦	
副科長	小林正佳	
医師数	常 勤	7名
	非常勤	2名

■ 診療科の特色・診療対象疾患

特色

診療科の特色・診療対象疾患

三重県内唯一の大学病院として、耳鼻咽喉科、頭頸部外科領域全般の疾患に対処しており、特に頭頸部腫瘍の集学的治療、各種中耳炎と先天性難聴、アレルギー性鼻炎の診断と治療、慢性副鼻腔炎、嗅覚障害、味覚障害の診断、治療、研究に重点を置いています。また国立病院機構三重病院と連携して小児の人工内耳診療も行っています。特殊外来を各疾患に対して設置し、それぞれ専門性の高い診療を施行しています。日本耳鼻咽喉科学会認定専門医研修施設、日本アレルギー学会認定施設、日本気管食道科学会研修認定施設です。

■ 診療体制と特徴、実績

診療内容の特色と治療実績

2012年の外来患者数は15455人です。2012年の手術件数は661例で、その内訳は頭頸部腫瘍203例、うち悪性128例、良性75例、再建手術施行11例。鼻副鼻腔良性疾患224例、耳疾患が89例、口蓋扁桃摘出術24例です。

頭頸部癌の2012年の新患者数は128例で、手術治療の他、放射線治療科の協力を得て機能温存を目指した化学放射線療法も行っています。上顎癌には動注療法+放射線治療を行い、成績も良好です。最近9年間の喉頭癌治療例の疾患特

異的5年生存率は88%、中咽頭癌の疾患特異的5年生存率は57.5%（特に側壁癌に関しては69.0%）、下咽頭癌の疾患特異的5年生存率は51%で、切除可能例は68%です。再建手術には有茎皮弁と遊離皮弁、遊離空腸を適宜用いています。食道、縦隔、頭蓋内など他科領域にわたって進展する腫瘍に対しては、消化器外科、胸部外科、脳神経外科等と合同で手術をしています。

鼻副鼻腔疾患のうち慢性副鼻腔炎の手術は内視鏡下鼻内手術で施行しています。腫瘍性疾患も可能な限り内視鏡手術で施行しています。難症例にはナビゲーションシステムも活用して安全な鼻内手術を行っている。また、他科と合同の経鼻的内視鏡手術も多く、脳神経外科とは下垂体腫瘍摘出手術を、眼科とは鼻内からの鼻腔涙嚢吻合術、歯科口腔外科とは歯牙を温存する歯根嚢胞手術を行っています。

アレルギー性鼻炎に対しては免疫治療を中心に行っています。またその他の保存的治療、手術的治療も施行しています。


中耳手術の2012年症例数は鼓室形成術60例、鼓膜形成術4例、アブミ骨手術3例、人工内耳埋め込み術3例です。多施設からの真珠腫性中耳炎症例や両側高度感音難聴例などの紹介受診が多いです。最近の術後聴力成績では、I型で85%、III型で77%、IV型で72%の成功率です。

睡眠時無呼吸症候群に対しては2泊3日の検査入院で、ポリソムノグラフィ、薬物睡眠検査などの結果に基づいて診断し、n-C P A P治療の他、栄養士による体重減量指導、手術、歯科装具などを選択して、発症の原因に適宜応じた治療を行っています。n-C P A P治療のコンプライア

ンスは89%と高いです。

います。

めまい外来では、電気眼振図を用いてカロリック検査などを行い、めまい全般の診療を行っています。

 <http://www.hosp.mie-u.ac.jp/> (ホームページ)

聴覚外来では、突発性難聴や高度感音難聴例などの診療を行い、人工内耳手術や中耳手術の適応の決定も行っています。

嗅覚・味覚障害に対しては、全国でも有数の専門外来を設置して診療している。三重県の他、愛知県、岐阜県の東海地方、また京都府、大阪府など関西地区や関東地区からも患者が受診しています。原因に応じて保存的治療の他、副鼻腔炎や鼻腔形態が原因の例に対しては手術治療も適宜施行している。改善率は副鼻腔炎による嗅覚障害で80%、感冒後嗅覚障害で85%と高いです。

嚥下外来では、言語療法士とともに嚥下内視鏡や嚥下造影で機能評価、診断を行っている。また重症誤嚥に対し、これまでに12例の誤嚥防止手術を行っています。

音声外来では、発声障害や嗄声の診断と治療、特に音声改善手術も行っています。

医療設備 MRI、CT、PET、核医学、超音波、各種内視鏡、耳用顕微鏡、各種レーザー、マイクロデプリグラー、電子ファイバースコープ(NBIシステムあり)、聴力検査機器、インピーダンス検査機器、脳波聴力検査機器、耳音響放射検査機器、各種平衡機能検査機器、基準嗅力検査器、味覚検査機器、鼻腔通気度検査機器、アコースティックライノメータなどを設置して